

星空プロムナード 暦 惑星 夏の星座案内

作花一志（京都情報大学院大学）

星空に親しめる頃になりました。夏から秋にかけての主な天象です。

月 日	現象	備考
7月3日	新月	
7月4日	地球遠日点通過	1.017 天文単位
7月11日	火星土星大接近	日没後西天 しし座
7月18日	満月	
7月19日	土用入り～8月6日	太陽黄経 117
7月21日	人類月に立つ日	1969年アポロ11号
7月24日	土用 丑の日	8月5日も
8月1日	新月 スターウィーク～7日 皆既日食(日本では見られない)	
8月7日	立秋 旧七夕	太陽黄経 135
8月12日	ペルセ極大	
8月17日	満月	
8月31日	新月	
9月12日	水星金星火星の大接近	日没後西天おとめ座
9月14日	中秋の名月	旧8月15日
9月15日	満月	
9月23日	秋分	太陽黄経 180

金星

7月に入り宵の明星として日没後に輝いてきました。次第に太陽から離れ、かに座しし座おとめ座と移っていきます。

火星

秋までは日没後西の空に見えます。7月初にはしし座レグルスの近くで土星と並び、9月にはおとめ座スピカの下で金星、水星と接近しますが、日没間もない西の低い空なので見づらいでしょう。

木星

天の川の東岸，南の低い空に輝き，ゆっくりといて座からやぎ座に向かっていきます。この夏全天の最輝星です

土星

しし座レグルスのそばで，日没後しばらくは眺められますが，次第に太陽と同方向となり9月中旬からは明け方に移ります。

中秋の名月

旧暦で8月15日になる日で今年も満月の前日です。

ペルセウス座流星群

月齢14ですが流星群の見える早朝3時ころには月は西に傾いています。

土用丑の日

夏の土用とは太陽黄経が $117^{\circ}\sim 135^{\circ}$ である期間で，その間に干支が丑となる日は，今年は7月24日，8月5日と2回あります。

いて座とへびつかい座

夏の夜空には天の川が南北に流れ・・・というのは昔話になってしまいました。南の空，天の川が最も濃いところにいて座が，その北にはへびつかい座がさらにヘルクレス座と続きますが，これらの星々を近畿で



イラスト提供 中西久崇
(1969—2007)

見ることはもはや絶望的です。せめてこの物語を読んで天空の師弟の姿を思い浮かべてください

へびつかいといってもインドの蛇使いとは大違いで、ギリシアでは医師を表します。なぜなら再生不死の象徴である蛇を扱うからです。へびつかい座は医師の祖アスクレピウスの姿です。彼はアポロンの子で、実は生まれる前に一度死んでいるのです。アポロンは何番目かの妻コロニスの不貞を許すことが出来ず（なんと身勝手な！）、彼女を弓で射殺してしまいますが、コロニスのおなかの中には彼らの赤ん坊がいたのです。アポロンはその子だけは助けたいと思い、ケンタウロス族のケイロンに託しました。ケンタウロス族とは上半身は人間で、下半身は馬という化け物で、しばしばギリシアを襲っては略奪を繰り返すので、人々は恐れていました。きっと馬を知らなかったころのギリシア人は北方騎馬民族を恐れてこのような動物を考え出したのでしょう。しかしその中でケイロンだけは文武両道に秀でたケンタウロスとして、神々からも人々からも尊敬されていました。彼は弓の名手で、アスクレピウスの他にも、ヘルクレス（ヘルクレス座）、カストル（ふたご座：あすとろん第2号 p37 参照）、イアソン（アルゴ船）などの若者を育てています。

ケイロンはその胎児を蘇生させ、養育し、そして学問特に医術を授けました。やがて成人したアスクレピウスはギリシア随一の名医になりました。彼に治せない病はなく、戦いで怪我をした兵士や瀕死の病人をたくさん救います。やがてこの名医は死者をも蘇らせる治療をするようになりました。しかしこれは自然の摂理に違うことで、人間がしてはならないことだったので。死者が来なくなった死の国の王ハデスは激怒し、ゼウスに訴えます。ゼウスもアスクレピウスを許しておくわけにはいかず、しかたなく彼の頭上に雷を落して致命傷を与えます。さすがの名医も自分自身を治すことはできませんでした。これは筆者の好きなギリシア星物語のひとつです。

なお、アスクレピウスの息子や娘たちはいずれも医術に関わっており、その子孫には医学の父と称されるヒポクラテス（紀元前 400 年ころ実在）がいるそうです。